

「ごちゃまぜ」 あらゆる障害のない社会へ

# GO CHAMAZE

*times*

A yellow circular sticker with black text. The text "2020" is at the top, "WINTER" is in the middle, and "VOL. 13" is at the bottom.



# ローカル ごちゃませ巡り

**実は地方も  
進んでる!**

最近では熊本市内のフルーツパフェが有名な『FLAVERDO』や、各メディアでも取り上げられた『熊本クラフトコーラ』など、「ハナウタカジツ」の果物を使用している事を明記してくれていることが増えてきました。県内の飲食店と取引しているのは、商品を卸す事が目的ではなく、知つてもらうキッカケになる事なんです。名前を知つて

お金が無いなら果物を買わなくていい  
ただ、その現状にしょんぼりしている  
だけだと、この業界は終わります。そ  
こで自分は、「果物であります」と「果物で  
はない存在」になつた方が競争に勝て  
ると思つています。例えば「朝からハナ  
ウタカジツの桃を剥いて食べたい」と  
言いたい、と思わせる事。それは果物  
じやなくともいい訳で、果物同士の競  
争ではないんです。



熊本の食材と、元祖天然クラフトコーラ専門店「ともコーラ」とコラボによる、「熊本クラフトコーラの素」  
詳しくはこちら↓  
<https://kumacola.official.ec/>

「農家だけど農家じやない」。  
　　ハナウタカジツの代表・片山和洋さんがどういう人か聞くと、  
　　そんな答えが返ってきます。  
　　いつもどんな事でも面白がり、  
　　農業の枠を超えて関わってきてくれる。  
　　そんな片山さんの話を聞くと、  
　　これから時代を生きるヒントが見えてきました。

片山和洋さん

インタビュー「ごちやまぜな人」 第13回

幸せな世界には「果物」があるはずだ

22歳で就農後、果物と向き合う日々を過ごしました。でも日を追うごとに「作る→食べてもらう」の繰り返しでいいのかなと思うようにもなったんです。農家という職業は自分がどれだけ頑張っても、自然災害や環境の変化によつて失敗してしまう事もあるんですね。

もうう事で、その人がインターネット上で「熊本 桃」と検索するのではなく、「ハナウタカジツ」と検索する事が狙いです。ネット検索に引っかかるない!! この世に存在しないと思つて いる若者もいるくらいですかね。

多くの果物農家は糖度が高く、農薬散布が少ない事をブランドの価値として謳っている事が多いんですが、台風のような自然災害などが起ると、糖度は下がり、ブランドの価値が容易に下がっていきます。これらの時代、その危険はどんどん大きくなると思うんですよ。そんな時に日本中の農家が糖度が高くて農薬散布が少ないもの、という2つの要素を持つてみんながそれに向かってブランド磨きを目指していくと、農家同士の仲は悪くなっています。どんどん疲弊していくと思います。もちろん自分達も美味しくて安全な物を作りますが、「かわいくておしゃれ」という事をブランドの一つの要素として組み込んでいるんです。そうすると他の人が「頑張っていても、自分達がまったく違うところを走つてるので「おう頑張れ！」と言つてもらえます(笑)。実際問題、果物つて食べなくなっているんです。皮をむくのがめんどくさい、

農家をやっていると「果物で世界を幸せにする」という考えになりがちなんですが、これって結構おこがましい部分があると思っています。果物は絵具であり、彩りを与える物。「果物が世界を幸せに」ではなく「幸せな世界には果物があるはずだ」という事です。その附加価値を与える物として、ハナウタカジツも存在していきたいですね。

**片山 和洋**  
かたやま・かずひろ  
ハナウタカジツ代表。  
熊本県熊本市植木町出身。2児の父。22歳より実家の農家を継ぎ、『ハナウタカジツ』という名前で始動。現在、県内の様々な飲食店に果物を卸している。



## 実は地方も進んでる！／ ローカルごちゃまぜ巡り

### ローカル「ごちゃまぜ」 巡りの旅

地域活性・地方創生、とにかく都市ではないローカル（地方）地域を盛り上げよう！という動きが活発になって久しい今日この頃。各地で自治体や地域主導で、さまざまな地域活性化施策が実施されています。インバウンドを狙った、外国人観光客向けに地方の魅力を紹介するコンテンツも増えたことで、さまざまな国籍や文化背景をもつた人が日本の地方にも多く訪れるようになりました。また、もともとその地域に住んでいた住人だけでなく、J-ターンや移住、または副業やボランティアなど、もっとゆるやかな形で地域と関わる「関係人口」というたちで活動する人たちも出てきました。このような流れの中、「地方」や「地域」には、今までにない「人の潮流」ができるいるように思います。

一方、都市へ住む人々や、実際に地方で生活している人たちの中で、「地方」や「地域」における「関係性」のイメージはネガティブなものが多いかもしれません。家族や親族、ごく一部の人間関係で完結するような、排他的で閉鎖的、窮屈なムラ社会。人口はどんどん減少していく。高齢化も進んでいく。「すべての人々を孤独や孤立、排除や摩擦から保護し、健康で文化的な生活の実現につなげるよう、社会の構成員として包み支え合う」ことを意味するソーシャルインクルージョンとは、「見、対極に見える「地方・地域社会」。女性の社会進出や高齢者の積極的な採用、性の多様性や新しい福祉など、多様性への取り組み

今回は、そんな背景を感じながら「地方」や「地域」における、

知る、見る、感じる

は、人も余裕もある都市部が先行して取り組むことができている印象を受けます。

しかし、地域や地方も「いろいろな人がいる」状態が当たり前になってしまった。さまざまなかたちで、その地域に参画した「異なる背景を持った人」が、概念を変える・新しいかたちを模索していくといった、いわば「〇〇の多様性」とも言える人たちで、活動の場を広げています。

たとえば森林や水辺、海など地域ならではの土地柄を生かしたプロジェクトや、魚や果物などを組みが発信されていくことで、その地域に興味を持ち、外からでも交流しよう、ちょっと観光してみようという動きも見られ、多様性はどんどん連鎖していくように感じます。

実は、この「ごちゃまぜタイムズ」は、ソーシャルインクルージョンによる「ごちゃまぜ」的な活動を旅するように知ることができます。

ソーシャルインクルージョンは、

#### 表紙フォトグラファー|奥田 峻史（おくた みちふみ）

SOCIALSQUARE 熊本店  
ソーシャルコーディネーター／社会福祉士

1994年生まれ。秋田県仙北市出身。社会福祉士。東日本国際大学で社会福祉を学んだ後、2017年新卒入社でソーシャルデザインワークスへ。学生時代は硬式野球部に所属。2年生の秋に野球部を辞め、趣味だった写真を活かし写真展『境界線』を開催。その他の活動として、いわきユニバーサルマルシェ（被災障がい者自立支援促進事業）で取材・情報発信活動に携わる。

最新記事は WEB の GOCHAMAZETimes で！



<https://gochamaze.jp>

今回の特集やインタビューの全文を公開中！過去のタブロイドのアーカイブはもちろん、ウェブ限定のインタビューや対談など、ここでしか読めない記事も豊富にあります。ぜひ一度ウェブ版もご覧になってみてください。

世界は、たった1人の自分で、70億人の他者によってつくられています。自分とまったく同じ人など、この地球上には存在しません。この社会は「違い」によって成立しているのです。

ところが私たちは、思わず「同じ」であることを求め、周囲と同じであることに安心感を覚えがち。社会を成り立たせている「違い」は、次第に表に出しにくいものになり、多くの生きにくさが、そこから生まれています。

しかし「違い」が、そのまま生きにくさになるのではありません。周囲の受け止め方や環境によって、誰かの生きにくさは変えられるはずです。

社会は、もともとが「違い」だらけ。ごちゃまぜタイムズは、当たり前のことを当たり前にするために、世の中の「ごちゃまぜ」を伝えていきます。

## WHO WE ARE



Edit Members



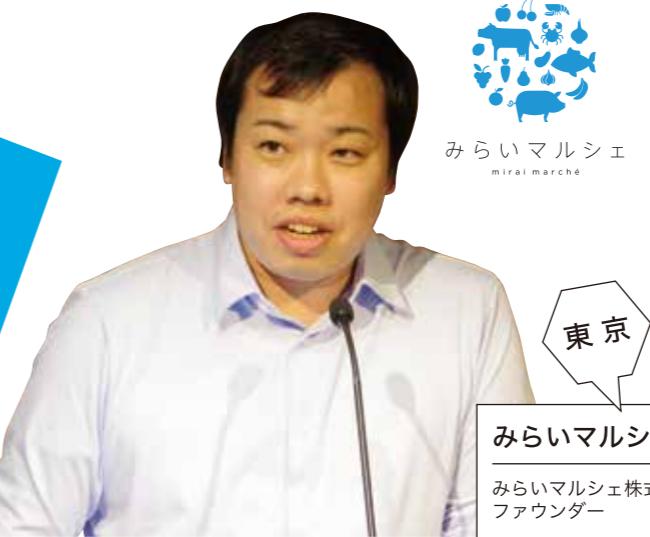
詳しくは web をご覧ください。

NPO法人ソーシャルデザインワークス  
私たち「すべての仲間の幸せを追求すると共に誇めない社会を創る」を理念に掲げているNPO法人です。2019年現在、福島県いわき市、兵庫県西宮市、熊本県熊本市で障害福祉サービス事業所を展開しています。障害福祉サービス事業を軸とし、障害の有無や性別、国籍、年齢など一切関係なく、様々な属性の方々が自然に交流ができる機会を、ごちゃまぜイベントと題し企画運営しています。また、ごちゃまぜの発信・広報を行っています。

<https://sdws.jp>

## 产地・卸売の多様性

全国の产地と食品スーパー間で鮮魚や青果を売り買ひできるオンライン生鮮品卸売市場「みらいマルシェ」を運営しています。出品する产地側には販路開拓のサポートを、仕入れ側の食品スーパーにとっては独自商品の仕入れをサポートしています。「全国様々な地域の产地とスーパーがインターネットで繋がり、ダイレクトにコミュニケーション・情報共有をすることで、新たな需要の発見や今までにない価値を生み出していくきます。



mirai marche

mira...  
marche

東京

みらいマルシェ株式会社

みらいマルシェ株式会社  
ファウンダー

土屋 敬さん



## 老・病・死の多様性



福島

いわきの地域包括ケア「igoku いごく」

いわき市地域包括ケア推進課  
igoku 編集長

猪狩 優さん

いわき市地域包括ケア推進課と市内のクリエイターによる「死をタブー視しないコミュニケーションデザインプロジェクト」、「動く」のいわき訛り「いごく」をキャッチフレーズに敢えて「老・病・死」にスポットライトを当て、活動。ウェブ「igoku」と紙の「igoku」を柱に医療・福祉・介護・障害・まちづくりなど社会包摵に関わる様々なプロジェクトを実施。2019年グッドデザイン賞ファイナリスト第5位を受賞。



「ごちゃまぜ」  
地方ならではの

## 地域発の ごちゃまぜ

ニッポン全国、ごちゃまぜの旅  
編集部が選定した、  
ごちゃまぜ的な活動を一挙紹介！



## 家族の多様性

都会にも地方にも、どんな場所にもなり小なり課題はあります。今回は、小さな一步でも自分たちの手で少しづつ変えていける手応えを感じながら生活する方法を選んだ人たちと、その取り組みを紹介しました。共通して言えるのは、どの取り組みも「それ自体を楽しんでしまう」こと。自新しさや成功例ばかりが取り上げられがちな地域活性・地方創生ですが、いつでもトライ・アンド・エラーを繰り返して、それ自体を楽しんでいる人たちが必ずいます。きっと、あなたの住む街にも、あなたの故郷にも。



はっぴーの家 ろっけん

はっぴーの家ろっけん代表

首藤 義敬さん

## 都市と地域をつなぐ「ごちゃまぜ」スポット紹介



かくれ架 BASE  
株式会社 Founding Base  
かくれ架 BASE運営代表 富永咲  
東京都台東区上野桜木1丁目14-21  
高遠レジデンスB1



LINDA HOSTEL  
共同創業者 水口智博 張本舜奎  
大阪府大阪市北区浮田1-1-8

人と出会い新しい価値観や生き方に触れる。今まで知らなかつたお酒や食材の美味しさに気づくこと。それぞれの糸が自分の糸とより合わさって紡がれ、自分の生き方の軸となっていく。かくれ架 BASEは、来てくれる人も一緒になってつくっていく秘密基地のような隠れ家です。



NagatachoGRiD  
GRiD管理人 山口若葉  
東京都千代田区平河町2-5-3



週間マガリ  
週間マガリ管理人/  
意識低い系ゆとり起業家 小西亮  
大阪府大阪市北区天神橋1丁目11-13

世界中の旅人と、関西の住人が集まる「人とつながる」世界が広がるホステル。旅人は、交流を通して友達ができる。日本の理解が深まる。住人は、様々な気付きがあり、刺激や安心感を得られる。常連は、面白いことを共に仕掛けていく。そんな国籍も、世代も、肩書も、関わり方もごちゃまぜな拠点を創るため営業しています。

ラウンジやイベントスペース等、人が交わる場をもつGRiDには毎日200名以上の国内外、全国から様々な方が出入りしています。全国住み放題サービスのADDressや地域の暮らし体験サービスTABICA等、地方と都市を結ぶ事業や官公庁の方も利用しており社会を変えたいというエネルギーが集まっています。

大阪・天神橋のパラレルワールド。城っぽい古民家レトロビルが目印。隠れ家にもほどがあるエルトランスから2階へ上がる。そこはジャングリラな秘境感。フェスのよう普段会わないジャンルと巡り合う、1000職種の1日店長が○○BARやCAFEを催した「間借り」が楽しめるスペース。

大阪・天神橋のパラレルワールド。城っぽい古民家レトロビルが目印。隠れ家にもほどがあるエルトランスから2階へ上がる。そこはジャングリラな秘境感。フェスのよう普段会わないジャンルと巡り合う、1000職種の1日店長が○○BARやCAFEを催した「間借り」が楽しめるスペース。

面白いことを共に仕掛けていく。そんな国籍も、世代も、肩書も、関わり方もごちゃまぜな拠点を創るため営業しています。

